

平成 29 年度 陽南小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

心身ともに健康で創造性に富み、心豊かで実践力のある児童を育成する。

【具体目標】

【目指す児童像】

- (1) 自ら学び、ねばり強く努力する児童……楽しく学ぶ子【かしこく】（自主・思考・判断・創造）
- (2) 思いやりをもち、助け合う児童……仲よく助け合う子【なかよく】（思いやり・責任・協調・協力）
- (3) 健康と安全に留意し、元気に活動する児童……元気に活動する子【たくましく】（明朗・気力・体力）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育の目標は、「人間尊重の教育」を基盤として、21世紀の担い手として主体的に生きることができ、心身ともに健康でたくましい人間の育成を目指している。そのためには、自然や人を愛し自他を慈しむことのできる豊かな感性や強い体力・精神力を培ったり、自ら考え進んで学んでいこうとする意欲に満ちた態度を身に付けさせたりする等、知・徳・体の調和のとれた人間の育成を図ることが大切である。

さらには、一人の人間として、自分の生き方についての考えをもち、よりよい生き方を求め、自分らしく生きていくとともに、社会の一員としての自覚と責任をもち、広い視野に立って、積極的に他と協調し連携を図りながら、よりよい社会を築いていくために努力する能力や態度を身に付けさせていくことが学校教育に求められる。

これらのことを踏まえ、創立69年の陽南小学校のよき伝統と校風を引き継ぎ、すべての教職員の力を結集するとともに学校内外の物的・人的資源を最大限に生かし、児童一人一人の確かな成長を図る学校づくりを進める。その理念と目指す学校像を次のように設定し、教育活動の充実につなげる。

【理念】

【目指す学校像】

- | | |
|-------------------|----------------|
| ・安心と楽しさのある学校づくり | ・確かな学力を育む学校 |
| ・ともに伸びる学校づくり | ・豊かな心を育む学校 |
| ・家庭や地域から愛される学校づくり | ・健康な身体を育み安全な学校 |

3 学校経営の方針（中期的視点）

全職員が信頼と和を基盤とした協働体制のもと、教育目標や学校のあるべき姿の具現化を目指し、次の6つの方針をもとに学校経営にあたる。

- (1) すべての児童の人権を大切にし、児童が教育活動の中で自分のよさや個性を発揮し自己肯定感や自己有用感を感じることができ学校づくりに努める。
- (2) 小中一貫としての義務教育9年間を通した系統的な指導を通して、確かな学力の向上を目指し、基礎・基本の確実な定着と「楽しく・わかる・できる授業」作りに努める。
- (3) 自他の生命を尊重し、児童一人一人が生き生きと安心して学校生活を送る中で、児童が自ら健康や体力等の増進に取り組む学校づくりに努める。
- (4) 学校課題研修や教師の自己研鑽に基づいた校内研修を充実させ、教職員個々の指導力及び資質の向上を図るとともに、一人一人の能力や特性を生かしながら、児童とともに伸びる学校づくりに努める。
- (5) 「地域の学校」として学校・家庭・地域社会が互いに連携し、信頼関係を深めながら地域の教育力を高めるとともに、陽南地域学校園および小中一貫教育の積極的な取組により学校力の向上を図る。
- (6) 学校・家庭・地域社会が一体となり教育活動の充実を図るとともに、積極的に情報を発信する開かれた学校づくりに努める。

陽南地域学校園教育ビジョン

地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育
～子どもの自主的な活動を通して～

4 今年度の重点目標（短期的視点）

【学校運営】

- ・学校経営のビジョンを教職員で共通理解し、協働して取り組む体制づくりを進める。
- ・学校と家庭・地域の双方向的な関係を築き、学校内外の教育的資源の有効活用を図る。

【学習指導】

- ・「だれもが『楽しく・わかる・できる』授業の創造～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた国語科授業づくり～」の研究に協働して取り組む。
- 基本的な学習習慣の定着と個に応じた指導の充実を図る。

【児童生徒指導】

- ・基本的生活習慣を身に付け、時と場に応じて適切に判断し、自主的に行動できる児童を育成する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自ら進んで心と体の健康づくりに取り組む児童の育成を図る。
- ～自分の力に合ったためあてをもち、主体的に運動する児童・自分の体に関心をもち、自ら健康で安全な生活ができる児童をめざして～

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価				
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 「学校全体に活気があり明るくいきいきとした雰囲気である」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	① 児童一人一人が所属感と安定感をもった居がいのある学級作りに向けて、Q-U検査やアンケート・日常の交友関係の観察により、児童の実態を把握し、問題があるときはすぐに対策を講じる。学年間の連携も図る。 ② いじめの早期発見のため、「学校をよりよくするアンケート」を6月・10月・2月に実施し、実態を把握することで、児童が明るい気持ちで生活できるようにしていく。 ③ いじめ・不登校の早期発見・早期対応・解決に向けて、児童指導委員会学年会・ブロック会で情報交換し、教育相談を6～7月と12月に実施する。また、学校の取組だけで改善することが困難な家庭環境が背景にあると思われる不登校については、関係機関（市教育センター・民生委員・主任児童委員・児童相談所・市役所子ども課）と連携をするとともに、各担当からも働きかけを行うようにして、改善を図る。 ④ 日常の指導で問題が起きたときは、児童指導主任・安全主任・学年主任等と連携を図って直ちに対策を話し合い、	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>87.7%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>91.2%</td></tr></table> ・日常指導の中で各種アンケートを実施したり、教育相談の機会を設けたり、問題発生時には、早期対応を図り共通理解の下に指導に当たってきたため、児童・保護者ともに肯定的回答率が、指標を上回った。 【次年度への方針】 ・今年度に引き続き、児童一人一人の様子に目を配り、些細な変化を見逃さない姿勢を教師が保つと共に、問題発生時には、学校全体で連携を図り、早期発見・早期支援に努める。全体での情報交換も引き続き行う。	児童の肯定的回答率	87.7%	保護者の肯定的回答率	91.2%
				児童の肯定的回答率	87.7%			
保護者の肯定的回答率	91.2%							

	対応策を学年に持ち帰って各クラスで指導をするなどし、素早い対応に努める。また、職員会議の折に児童指導委員会を開き、各学年の児童の様子を伝え合い、全教職員が共通理解のもと、児童育成に努める。					
A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 「先生方は大切なことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 「教職員は、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	① 学校教育目標具現化に向けた学校経営のもと、一人一人を大切にし、児童のよさを認め伸ばす学級経営に努める。 ② 児童の理解度をもとに、具体物の操作や教材教具の工夫や算数の習熟度別学習を取り入れることにより、「分かる授業」を展開し、基礎・基本の確実な定着を図る。 ③ 教師自身の授業力向上に向けて、一人一授業を実践し、常に学び合う場を設定する。 ④ 授業参観後の懇談会や学年だより等で、学校で指導していること、家庭で指導してほしいことを伝え、協力して指導する。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>96.3%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>88.1%</td></tr></table> ・教材教具やパソコン、インターネット等の映像資料を有効活用できたことや、算数の習熟度別学習が定着したことが「分かる授業」につながり、児童・保護者ともに肯定的回答率が、指標を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き「分かる授業」の展開を心がけ、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、学年だよりや懇談会等で指導内容を保護者に伝え、家庭との連携を図りながら家庭学習の定着を進める。	児童の肯定的回答率	96.3%	保護者の肯定的回答率	88.1%
児童の肯定的回答率	96.3%					
保護者の肯定的回答率	88.1%					
A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 「児童（生徒）は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上	① 学校の決まり「陽南のよい子」に従って、全教職員の共通理解のもと常時指導を継続し児童にきまりやマナーが身に付くようにする。 ② 「陽南授業・生活のきまり」をもとに、児童に自分の生活を振り返らせ、規範意識を高め、判断力・実践力の育成を図る。（振り返りは学年に応じて、年3回実施） ③ 生活目標を朝の会等で唱和させて意識化を図るとともに、あいさつ、姿勢、言葉遣い、返事などの目標を焦点化し、スモールステップによる定着化を図る。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>78.1%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>74.2%</td></tr></table> ・「ようなん授業・生活のきまり」の実施、振り返りを行うことで、児童が落ち着いて生活できるようになった。しかし、教職員・児童ともに肯定的回答率が指標を下回った。児童の個人差が目立ち、教職員の指導観の統一を図るのが困難だった。 【次年度の方針】 ・今後も目標を具体化、焦点化し、児童に意識させると共に、教師が、児童の学習態度や生活の様子についてよく見るにより、具体的に賞賛する。	児童の肯定的回答率	78.1%	教職員の肯定的回答率	74.2%
児童の肯定的回答率	78.1%					
教職員の肯定的回答率	74.2%					
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	① 十分な教材研究のもと、本時の学習目標を明確にするとともに、児童の理解度に合わせた作業用紙やヒントカード・ヒントコーナー・教材教具を準備し分かる授業に努める。 ② 授業の中で児童の意見を取り上げ、認め励ますなどして生かすことで、自信をもって自分の考えを表現したり伝え合ったりすることができる児童	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>95.2%</td></tr></table> ・昨年度同様、児童の理解度に応じた指導や児童同士の学び合いに取り組んできたことで、児童の肯定的回答率が高く、指標を 15.2%上回った。 【次年度の方針】 ・今後も、校内授業研究会等を通して、教師同士が互いに授業を見合い、学び合う研修を継続し、わかる授業の指導の研究に努める。	児童の肯定的回答率	95.2%		
児童の肯定的回答率	95.2%					

	童の育成を図る。 ③ 少人数担当との連携を図った学年習熟度別学習や学級内習熟度別学習・コース別学習を行ったり、単元によって学習体制を替えたりするなど、学習形態や場の設定を工夫し、効果的な学習の進め方を追究することにより、児童の理解が深められるようにし学力向上を図る。 ④ 計画的な板書を心がけ、児童が課題の確認や共有、焦点化が図れるようにするとともに学習内容の振り返りの場面で活用できるよう構造的な板書を工夫し、授業力の向上に努める。 ⑤ 会話科の学習を計画的に実施し伝え合う力の育成を図る。また「聞き方・話し方のきまり」の掲示物により意識づけを行う。 ⑥ 週1回、朝の学習に算数における数と計算の学習を系統的に行うパワーアップタイムを設け、基礎基本の定着を図る。	・授業では、児童のつまずきの具体例を取り上げ丁寧に指導するとともに、保護者にも学年だより等を通して、学校の取組や児童の現状や変容を伝える機会を増やす。				
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	① 人権週間、「いじめゼロ・にっこり集会」等を通して、互いを思いやることの大切さを理解し自分たちの生活をよりよいものにしていこうという意欲を高める。 ② 教育相談やアンケート調査を通して、「いじめ」や「いじめにつながる行動」の早期発見に努めるとともに、いじめが疑われる事案が把握された場合は、いじめ防止対策委員会を開催し関係教職員が組織的に連携し、家庭の協力も得ながら解決していく。 ③ 「学校をよりよくするアンケート」を6月・10月・2月に実施し、いじめを抑止するとともに把握した実態を懇談会や学年だより等で保護者に周知し家庭の理解を得ながら、児童にいじめが許されない行為であるという意識を定着させる。 ④ 学年だよりの「にっこり広場～いじめゼロの楽しい学校を目指して」というコーナー	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>96.2%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>76.5%</td></tr></table> ・人権週間やいじめに関する集会、教育相談等を通して、児童の人権意識を高めたりいじめの早期発見に努めたりしたことで、指標を16.2%上回った。一方、保護者の肯定的回答率は76.5%であり、指標を3.5%下回った。しかし、昨年度と比べると8.5%上がっていることから、学年だよりの「にっこり広場～いじめゼロの楽しい学校を目指して」というコーナーで教育活動の様子を発信したことが成果として表れている。 【次年度の方針】 ・「学校をよりよくするアンケート」を12月にも行い、年4回の実施とし、いじめ等の早期発見・早期解決に努める。 ・学校の「いじめ防止」に向けた取組を学校だより、学年だより等を通じて、積極的に家庭や地域に発信していく。	児童の肯定的回答率	96.2%	保護者の肯定的回答率	76.5%
児童の肯定的回答率	96.2%					
保護者の肯定的回答率	76.5%					

	で教育活動の様子を発信する。 ⑤いじめ防止に関する道徳の授業を全学級行い、懇談会で説明する。					
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① ゆとりと充実感のある学校生活を目指し、行事の精選をする。 ② 学校行事や児童会活動に、児童が主体的に活動する場面を多く取り入れ、児童の主体性や企画・運営力を育てる。 ③ 宇都宮市小中一貫教育の方針に従って、適切な時数を確保し、夏季休業中1日、土曜授業1日を含めて、知・徳・体の調和のとれた教育課程の編成・実施に努める。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>85.6%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・学校行事や学年行事、児童会活動などにおいて、児童の主体的な活動を推進しているため、教職員や児童の肯定的回答率が指標を上回った。しかし、児童の肯定的回答率は、昨年度より5%程度低くなっている。 【次年度への方針】 ・次年度は、児童の実態に適した行事になるように、行事を精選したり、行事に対する児童の主体性や意欲が十分高められるように配慮したりしながら実施していくようにする。	児童の肯定的回答率	85.6%	教職員の肯定的回答率	100.0%
児童の肯定的回答率	85.6%					
教職員の肯定的回答率	100.0%					
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 「学校は、学校だよりや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 ⇒地域の肯定的回答率 80%以上	① 月1回配布の学校だより（地域にも回覧）・学年だより・保健だより・図書館だより・給食だよりや学校ホームページ等を通して、保護者や地域住民に学校の具体的な取り組みを積極的に発信し、学校教育への理解が深まるようにする。 ② 年度当初に「学校経営方針」を保護者に配布し、全保護者に周知するとともに、オープンスクールや学校行事の公開により開かれた学校づくりの推進に努める。 ③ PTA運営委員会における学校経営方針の説明や学級懇談における学級経営方針の説明などにより保護者が学校教育への理解が深められるようにするとともに家庭の協力を求めていく。 ④ 出前講座・音楽集会・児童集会等の教育活動を今まで以上に保護者に積極的に公開し、学校教育の現状を見ていただくことにより、本校の教育活動への理解を深めるようにする。	【達成状況】 <table><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>95.6%</td></tr><tr><td>地域の肯定的回答率</td><td>91.7%</td></tr></table> ・各種の便りや、ホームページに学校行事の様子をアップしていること等により、学校教育への理解が深められたため、保護者・地域の肯定的回答率が高く、指標をそれぞれ15.6%、11.7%上回った。 【次年度の方針】 ・学年だより等にホームページの告知を載せることで、保護者・地域の人に関心をもってもらう。 ・行事のホームページへのアップを実施日に行うように、係が声掛けを行う。 ・公開する行事等について学年だよりなどで、事前に情報を発信していく。	保護者の肯定的回答率	95.6%	地域の肯定的回答率	91.7%
保護者の肯定的回答率	95.6%					
地域の肯定的回答率	91.7%					
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 「学校は、家庭、地域、企	① PTAによる水曜日下校時の立哨・みまもり隊、地域の方々による青色パトロール隊等に協力を依頼するとともに、教職員が交代で下校パトロールを実施し、登下校時に	【達成状況】 <table><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>93.3%</td></tr><tr><td>地域の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・PTAによる下校時の立哨・見守り隊、地域の方々による青色パトロール隊などを実施し、児童の安全確保に努めた。	保護者の肯定的回答率	93.3%	地域の肯定的回答率	100.0%
保護者の肯定的回答率	93.3%					
地域の肯定的回答率	100.0%					

業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 ⇒地域の肯定的回答率 80%以上	おける児童の安全確保に努める。 ② 地域協議会の組織を有効活用し、学校支援コーディネーターを中心に、学校を支援するボランティアを募り、学校・家庭・地域との連携、協力を深めるとともに児童の教育・安全の充実を図る。 ③ 「人とのふれ合い活動」を積極的に推進し、地域の教育的資源（地区市民センター・独居老人・幼稚園・保育園）を活用して、コミュニケーション能力の育成や相手を思いやる心・助け合う心の育成に努める。	また、「まつぼっくり」「CBA」の読み聞かせや、「研究授業時の自習見守りボランティア」を地域協議会にお願いしたり、地域の教育的資源の活用として「水泳指導ボランティア」をお願いしたりした。そのため、保護者・地域の肯定的回答率が高く、指標をそれぞれ 13.3%、20.0%上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、学校・家庭・地域が連携した教育活動を行っていく。				
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 「学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすい」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 校内掲示の決まりに合わせて、室内は整然と整えられ、清潔感あふれ落ち着いた温かい雰囲気の中で、学習に集中できるように努める。 ② 縦割り班編成後、清掃場所に適切な数の班を割り当てる。毎日の清掃時には教職員も一緒に清掃し、その場でも発達段階に応じた具体的指導を行う。また清掃マニュアルを見直したり、清掃ボランティアの協力を得ながら児童が清掃の方法を学ぶ場を設定したりすることにより、児童の清掃スキルの向上を促す。 ③ 毎月の施設・設備の安全点検により、修繕・補修を迅速に行い、安全安心な学習環境を整える。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>86.7%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>90.0%</td></tr></table> ・校内掲示が計画的になされている。縦割り班清掃では、上級生を中心に清掃活動を行ってきたので、児童・教職員ともに肯定的回答率は指標を 10%程度上回っている。 【次年度の方針】 ・清掃の方法については、児童に分かるマニュアルを掲示し、しっかりと手引きに沿って指導していく。 ・施設整備については、市に修繕依頼などの要望を継続的に行う。	児童の肯定的回答率	86.7%	教職員の肯定的回答率	90.0%
児童の肯定的回答率	86.7%					
教職員の肯定的回答率	90.0%					
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒6年児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒6年保護者の肯定的回答率 80%以上	① 小中一貫教育のカリキュラムを充実させる。（9年間を見通した年間指導計画の作成） ② 小中乗り入れ授業を実施し地域学校園の小中の交流を促進する。 ・陽南中学校の先生による6年生への出前授業 ・中学1年生に関わった先生の陽南中学校での授業 ③ 陽南小児童会と陽南中学生徒会が協力して「あいさつ運動」を実施する。 ④ 陽南地域学校園5校（陽南中、陽光小、緑が丘小、横川西小、陽南小）による道徳の授業研究・研修の取組を協同で行う。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>82.4%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>90.9%</td></tr></table> ・小中乗り入れ授業や小中合同のあいさつ運動、6年生の中学校訪問等を行っていたため、6年児童・保護者の肯定的回答率が、指標をそれぞれ 2.4%、10.9%上回った。 【次年度の方針】 ・小中の乗り入れ授業などの時に、小中で交流している意義などを担任が指導する。	児童の肯定的回答率	82.4%	保護者の肯定的回答率	90.9%
児童の肯定的回答率	82.4%					
保護者の肯定的回答率	90.9%					

	B 1 安全に行動できる資質や能力を育成するために、関係機関と連携して様々な取り組みを実施する。 【数値指標】 「自分は、安全や保健の学習で、安全に行動すること健康に害のあること・やってはいけないことが分かって、正しいことをやろうと思う。」 ⇒児童の肯定的回答率 90% ⇒保護者の肯定的回答率 80%	① 安全に行動できる資質や能力を育成するために、より具体的・実践的な取り組みをしていく。特に自転車の乗り方に関しては繰り返し指導する。 ○各学年で実施（警察と交通安全教） ・防犯教室〔警察スクールサポーター〕（1年） ・非行防止教室〔防犯会社〕（3年） ・自転車免許講習（4年） ・防犯教室〔警備会社〕（5年） ・喫煙防止教育〔学校薬剤師〕（5年） ・スマホ・携帯電話についての講座〔市教育委員会〕（6年） ・薬物乱用防止教室〔警察〕（6年） ○全校で実施 ・警察スクールサポーターと不審者対応避難訓練 ・消防署と地震対応避難訓練 ・交通安全教室〔県・くらし安心安全課〕	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>90.8%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>87.2%</td></tr></table> ・児童及び保護者の肯定的回答率が、昨年より下回ったが、目標の指標は上回っている。さらに、教職員の肯定的回答率は90%を超え、今年度も取組が充実していたことが分かる。 【次年度の方針】 ・ヘルメットを着用した自転車の乗車や道路の正しい横断や歩行の在り方等を実生活の具体的重点目標とし、さらに指導を徹底したい。	児童の肯定的回答率	90.8%	保護者の肯定的回答率	87.2%
児童の肯定的回答率	90.8%						
保護者の肯定的回答率	87.2%						
教育活動の状況	A 11 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 「児童（生徒）は、あいさつをしている」 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上 ⇒保護者の肯定的回答率80%以上	① 全職員が率先してあいさつし、学級輪番制によるあいさつ運動を通年実施し、児童会と協力しながら元気なあいさつの意識化を図るとともに習慣化を図る。 ② あいさつについて児童の意識化図るため「あいさつをする意味」に言及し、学級指導や授業などで継続的に指導する。また、意欲向上のために、「あいさつ表彰」を実施する。さらに家庭での指導も学年だより等で呼びかけていく。 ③ 高学年児童が下級生の模範となれるよう指導の手立てを工夫し、児童同士のあいさつへの意識を高める。 ④ 家庭や地域学校園、地域協議会と連携して、あいさつ運動を推進する。	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>83.9%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>64.5%</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は、指標より3.9%上回ったものの昨年度よりも7.3%下がった。保護者の肯定的回答率は昨年度よりも5.2%下がり、指標も15.5%下回った。 【次年度の方針】 ・「全職員が率先してあいさつ」を徹底し、手本を示すことで、意識を高める。 ・児童会主催のあいさつ運動を定期的に実施していく。	教職員の肯定的回答率	83.9%	保護者の肯定的回答率	64.5%
	教職員の肯定的回答率	83.9%					
保護者の肯定的回答率	64.5%						
A 12 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 「児童（生徒）は正しい言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答率	① 生活目標で時と場に応じた「言葉づかい」について取り上げ、身に付くまで時間をかけて指導していく。 ② 「ことばの時間」の活動を通して自分の意思を表現する能力を高めるとともにコミュニケーション能力の素地を養	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>74.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>74.2%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は昨年度と比べて2.9%下がり、指標を6.0%下回った。教職員の肯定的回答は昨年度と比べて5.2%下がり、指標を5.8%下回った。	児童の肯定的回答率	74.0%	教職員の肯定的回答率	74.2%	
児童の肯定的回答率	74.0%						
教職員の肯定的回答率	74.2%						

	80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上	う。 ③ 道徳や学級活動の時間を活用して、相手の気持ちを考えた言葉づかいや話し方を段階的に指導することにより正しい言葉づかいの定着化を図る。 ④言語環境を整えたり、ふわふわ言葉を意識させる掲示物を作成したりして、児童の意識化を図っていく。	【次年度の方針】 ・児童への指導は、授業だけでなく日常生活において繰り返し指導していく。また、保護者への啓発も図っていく。				
健康・体力	A13 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 「児童は、休み時間や放課後などに、進んで運動している。」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上	① 「うつのみや元気っ子チャレンジ」を奨励するとともに教科体育において効果的な補助運動を取り入れるなどし、「ミニマム」達成を通した児童の体力向上を図る。 ② 休み時間における屋外遊びを奨励するとともに、運動に関するイベントを企画して楽しく運動する場を設け、運動習慣の定着化を図る。 ③各学年の「ミニマム」の内容や学校で行っている取組内容、家庭において親子で取り組める内容について、体育主任を中心として積極的に保護者へ向けて発信していく。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>86.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>87.1%</td></tr></table> ・全体アンケートの結果、児童及び教職員の肯定的回答率は指標を上回った。また、保護者の肯定的回答率は65.0%だったものの、昨年度よりは5.3%上回った。 ・児童委員会を中心に運動に関するイベントを企画し、自分のペースで運動に親しむことができた。 【次年度の方針】 ・今年度に引き続き、長なわ大会やその他の運動にチャレンジする機会を設け、児童の運動意欲の向上を図る。 ・各学年の「ミニマム」の内容と達成状況を学年だよりや学級懇談等を通して保護者に知らせる。	児童の肯定的回答率	86.0%	教職員の肯定的回答率	87.1%
児童の肯定的回答率	86.0%						
教職員の肯定的回答率	87.1%						
	【数値指標】 A14 児童（生徒）は栄養のバランスを考えて食事をしている。〔全〕 「自分は、好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上	① オープンスクール等での朝食摂取啓発ビデオ視聴また地域学校園で作成した「食育ファイル」を通して、食の大切さを啓発していく。学級活動や家庭科の授業において、栄養教諭による食育指導の時間を設けるなど、直接的な指導を行う。 ② 食育だよりを活用して食事のマナーや栄養素についての意識を高めるとともに、地域学校園で「お弁当の日」を同日開催したり、アンケートにより家庭の食への意識を把握したりしながら、食に対する意識向上を図る。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>75.4%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は指標を4.6%下回ったが、昨年度よりは3.1%上回った。 ・栄養教諭を中心に継続した指導を行ったことにより、児童の苦手なものでも少しずつ食べようとする意識の高まりがうかがえる。 【次年度の方針】 ・給食指導を通して変容した児童の様子を学年だよりや学級懇談等に保護者に知らせるとともに、家庭訪問や個人懇談等において個別にも保護者に伝え、家庭との連携を図る。	児童の肯定的回答率	75.4%		
児童の肯定的回答率	75.4%						
	B5 児童は、休み時間や昼休みに進んで校庭で遊んでいる。 【数値指標】 「自分は、休み時間や昼休みに進んで校庭で遊んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上	① 友達などと一緒に外遊びを行い、運動機能の向上やルールを守って仲良く遊ぶ心の育成を図る。 ② 学級全員で遊ぶ日（おおぞらタイム）を設け、みんなで遊ぶ楽しさや体を動かす気持ちよさを味わわせる。 ③ 友達やみんなで楽しく遊ぶためのルールやマナーを考	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>81.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・学級全体で遊ぶ日や縦割り班で遊ぶ日（おおぞらタイム）を設け、屋外遊びを奨励したことで、児童及び教職員の肯定的回答率は、ともに指標を上回った。 ・保護者の肯定的回答率は92.3%で、A13の項目と比較すると、児童は校庭で活発に外遊びをしている。	児童の肯定的回答率	81.0%	教職員の肯定的回答率	100.0%
児童の肯定的回答率	81.0%						
教職員の肯定的回答率	100.0%						

	⇒教職員の肯定的回答率80%以上	え、守ることを通して、健全な社会性の育成を図る。		【次年度の方針】 ・校庭の使用ルールを確認し、すべての学年の児童が安全で楽しく遊べるように引き続き指導する。
	B 6 児童は栄養の役割を考えて、食事をしている。(全) 【数値指標】 「自分は、給食で苦手な食べ物も食べている」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上	① 学年や発達段階に応じて、食事や栄養の役割を理解し、体に必要なものを食べようとする態度を培う。 ② 味覚が育つ大切な小学期の健全な育成を図るとともに、食事を通して学校生活のさまざまなことに前向きな姿勢を養う。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 84.6% ・児童の肯定的回答率は指標を4.6%上回り、A14の項目と比較すると9.2%上回っており、児童の苦手なものでも食べようとする意識の高まりがうかがえる。 【次年度の方針】 ・発達段階に応じて栄養の役割を理解し、体に必要なものとして様々な食材を食べることができるよう引き続き指導する。
	A 15 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 ⇒児童の肯定的回答率80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上	① 「だれもが楽しく、分かる授業」の展開に努め、「できる」喜びを味わわせることで、学ぶ意欲を喚起し、自ら学習に向かっていける児童の育成を図る。 ② グループ討論などの話し合いの場を意図的に設定し、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、授業や活動後に振り返りの時間を設け、自分の頑張りや友達のよさを伝え合うことで、自己肯定感を高めたり友達のよさに気付いたりできるようにする。 ③ 学校生活の様々な場面・時間で、その都度、話し方・敬語の使い方などを指導し、聞き手を意識した話し方ができるよう指導していく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.1% 教職員の肯定的回答率 96.8% ・一人一授業の取組や陽南地域学校園の道德の研究等を進め、その中で学び合いの場面を意識して取り入れたことにより、児童、教職員共に、数値指標を上回った。特に、教職員の肯定的回答率は、昨年度より5.9%上回っていた。 【次年度への方針】 ・引き続き、授業で話し合いの場を多く取り入れ、コミュニケーション能力を高めて行きたい。保護者の肯定的回答率が84.1%と昨年より2.9%上回ったので、学校での学習の取組を学校・学年だより等で、今後も進んで発信していきたい。
学 習	A 16 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「児童（生徒）は、進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上	① ポイントを明確にした「ようなん授業・生活のきまり」をもとに、落ち着いて学習する習慣を形成する。 ・授業の始まり・終わりのあいさつ ・良い姿勢 ・話の聞き方 ・片付けと次の準備 ② 話の聞き方や話し方を常時指導しながら、基本的学習習慣の定着を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 78.9% 教職員の肯定的回答率 77.4% ・児童・教職員共に、肯定的回答率が昨年度より数値目標を下回っており、「ようなん授業・生活のきまり」の意識付けが定着されていない部分があると思われる。 【次年度の方針】 ・「ようなん授業・生活のきまり」の徹底を図り基本的生活習慣・学習習慣を身に付けさせていきたい。 ・児童一人一人の様子に目を配り、各学年で共通理解のもと、児童の様子を伝え合い、全職員が児童の学習態度や意欲の育成に努めていきたい。
	B 2 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】	① 低中高の実態に合わせて作成した「家庭学習のしおり」と「家庭学習ヒント集」を活用して常時指導し、基本的な	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 83.1% 保護者の肯定的回答率 68.5% ・児童の肯定的回答率は、昨年度より

	「自分は家庭学習の習慣が身に付いている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	学習に対する姿勢を育てる。また、課題の内容を工夫し、個に応じた取り組みができるよう支援する。しおりの配布時や授業参観後の懇談会において説明の機会を作り、より浸透させていく。	1.7%上回っているが、保護者の肯定的回答率は、5.3%下回り、児童と保護者で肯定的回答率の結果に差が出る結果となった。 【次年度の方針】 家庭学習が、より定着していくために、低学年のうちから宿題の習慣を付けるとともに、学年に応じた家庭学習の取り組み方を、「家庭学習のしおり」などを使って児童や保護者に伝えていく。				
本校の特色・課題等	B3 「本とのふれ合い」を積極的に推進し、読書の楽しさを味わわせ、豊かな感性と逞しく生きる力を培う。 【数値指標】 「自分は本を読むことや図鑑などを見ることに興味をもって、読書に親しんでいる。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 多くの本との出会いと読書の楽しさを味わわせるために、週2回の読書の時間を日課表に位置づけ、月2回ボランティアによる読み聞かせを実施していく。 ① 多読表彰や図書コーナーの充実（図書館だより、児童の読書の記録、おすすめの本の紹介などの掲示）により本に親しむ環境作りに努め、児童の読書意欲の向上を図る。 ③ 全教科の調べ学習に対応できるように、必要とされる時期に必要な本の整備に努める。 ④ 読書の習慣化を促すため、「家読」を家庭に呼びかける。 ⑤ 週2回の朝、図書館の開館をする。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>80.8%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>96.8%</td></tr></table> ・昨年度までの取組を継続し、さらに読書に関連する企画を増やしたところ、児童の本と触れ合う機会が多くなり、肯定的回答が増加した。 【次年度の方針】 ・図書だより、掲示板、司書による呼びかけなどでおすすめの本を紹介したり、読書週間や図書との関連イベントを実施したりして、児童の読書への関心を高め読書意欲の向上につなげる。 ・「家読」について、図書だより、学年だよりで啓発したり、保護者会にも読書により培われる能力や感性について話してもらったりして、推進を図る。 ・市立図書館との連携を図ったり、新聞等の資料を整備したりして、充実した調べ学習ができるよう支援に努める。	児童の肯定的回答率	80.8%	教職員の肯定的回答率	96.8%
	児童の肯定的回答率	80.8%					
教職員の肯定的回答率	96.8%						
B4 「人とのふれ合い」の推進により、相手を思いやる心や助け合う心を養う。 【数値指標】 「縦割り班活動では、他の学年の人とも協力しながら楽しく活動することができた。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 縦割り班を主体とした活動（年2回の子ども集会・ふれあい給食・清掃班活動）を設定し、異学年交流の中でコミュニケーション能力を育成したり、思いやりの心や助け合う心を養ったりする。 ② 登校時のふれあい、地域の方とのふれあい、高齢者との交流、学校支援ボランティア感謝の会等様々な場面における交流活動の中で、児童一人一人のコミュニケーション能力の育成を図っていく。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>91.2%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>96.8%</td></tr></table> ・縦割り班清掃や子ども集会などの異学年交流を継続して行ってきたことに加え、本年度は、おおぞらタイムを使っただけの「にっこり班遊び」が軌道に乗ってきたことで、協力し助け合う気持ちが育ち、人間関係が深まり、児童の肯定回答率が指標を10%以上上回った。 ・地域の方や学校支援ボランティアの方と交流する機会を、各教科や総合的な学習の時間に計画的に取り入れ、充実した学びができた。また、児童一人一人が感謝の気持ちを表すことができたので、地域の肯定回答率は100%だった。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き今年度の取組を継続し、縦割り班活動を充実させることで、思いやりや助け合う心を更に養っていききたい。	児童の肯定的回答率	91.2%	教職員の肯定的回答率	96.8%	
児童の肯定的回答率	91.2%						
教職員の肯定的回答率	96.8%						

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

総合的にみると、学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色・課題等の多くの事項について概ね数値目標を達成することができたが、肯定的回答が80%に達しなかったものや数値目標を達成しても昨年度より下回ったものなど、次年度への課題を残した。

【学校運営について】

- ・教職員は、学習や生活の様々な場面で児童を認め励ましたり、分かる授業のために指導法の工夫改善に努めたりしたが、さらに一人一人に寄り添い、自己有用感を高める努力が必要である。
- ・各学年で地域の方や教育支援ボランティアとともに体験的な活動を行ったり、外部講師を招いて出前講座を行ったりして、教育的効果を上げている。
- ・陽南地域学校園小中5校で次年度より実施される「特別の教科 道徳」の研究を協同で行い、12月に市内の教職員に向けて研究授業の発表を行った。研究においては、小中の連携を図るとともに小学校同士の研究交流も深め、次年度の実施に向けて見通しをもつことができた。

【学習指導について】

- ・「ようなん授業・生活のきまり」の共通理解と指導の徹底を図り、落ち着いて話を聞く、進んで話合いに参加するなど基本的な学習態度の育成に努めていくとともに、新学習指導要領に沿った「互いに学び合う」学習も積極的に進めていく。
- ・陽南地域学校園協同で作成した「家庭学習のヒント集」の活用を図り、学年や自分に合った家庭学習を進んで行う態度の育成に努める。

【児童指導について】

- ・あいさつ・言葉づかいについての肯定的な回答が、児童、保護者、教職員ともに大きく目標を下回っている。和やかな人間関係の形成を土台に、その場にあったあいさつやぬくもりのある言葉づかいを教職員が率先して行うとともに、家庭や地域と協力してより良い言語環境を整え、児童の豊かな言語を育てていきたい。
- ・児童が互いの良いところや行いを認め合う「きりりカード」の活用促進を図るとともに、さらに善行についての表彰を行うことによって自己有用感を高める取組を行っていく。

【健康体力・食育について】

- ・児童は休み時間等、校庭で元気に外遊びを行い、体を動かしている。体を十分に動かす気持ちよさを通して運動への意識へと高めるとともに、ルールを守って仲間と運動する楽しさを通してより良い人間関係の形成に努めたい。
- ・給食では、栄養教諭を中心とした指導のもと、苦手な食材でも少しずつ食べようとする意識が育ってきている。継続して指導するとともに、児童の変容等を保護者に伝え、家庭と協力を図っていく。

【特色ある学校づくり「本・人・自然とのふれあい」について】

- ・多読賞の表彰などを通して、児童の読書への意欲が高まってきている。また、読み聞かせボランティアによる朝の読書活動にも積極的な態度で臨んでいる。さらに本とふれ合う時間を増やすため、家庭との連携を深め「家読」の活性化を図っていききたい。
- ・縦割り班活動では異学年交流が図られ、特に上級生が下級生を優しくめんどろを看る姿が見られた。また、地域のお年寄りとのふれ合う機会もあり、児童は人とのふれ合いを心の糧としている。より交流を深めていくことで、より良い人間関係を築くコミュニケーション力を育てていきたい。
- ・陽南の森など広い校庭を生かした生活科や総合的な学習の時間などの自然とふれ合う体験的な活動を推し進め、四季や動植物の変化を感じる豊かな心の育成を図る。

6 学校関係者評価

- 学校運営の状況においては全ての項目について、十分に数値目標を達成することができたものの、教育活動の状況においては児童の言葉づかいやあいさつ、授業中における学習態度や家庭学習などの項目について肯定的割合が目標数値を下回った。
- アンケートへの自由記述や学校評価についての話合いにおいては、以下のような意見が述べられている。
 - ・登下校などの様子からは、上級生が下級生の面倒をよく見て、みんなで楽しく活動していることが分かる。
 - ・児童の様々な問題に学校が組織的に取り組んでいる姿勢が感じられる。
 - ・あいさつ・言葉づかいについては、学校・家庭・地域が互いに協力して取り組んでいく必要がある。
- 今後も本校の学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色などについて積極的に公表し、保護者や地域の理解が深まるように努める。また、地域や保護者からの声を学校運営に反映し、改善を図り、家庭・地域と連携した教育活動の充実に努める。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○今後も、本校の学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色などについて積極的に公表しながら、開かれた学校づくりに努め、今年度の取組を継続・発展させながら、学校と保護者、地域が協力・連携を図り、地域に信頼される学校づくりを推進する。

◇次年度に向けての方向性

「安心と楽しさのある学校づくり」「ともに伸びる学校づくり」「家庭や地域から愛される学校づくり」の理念を継続し、以下の学校像を目指して全職員が学校経営に参加しながら取り組んでいく。

《確かな学力を育む学校》

○教師の授業力の向上

校内研修の充実、分かるできる授業の研究・実践

○基本的学習習慣の定着	「ようなん授業・生活のきまり」の徹底
○家庭学習の習慣化	家庭学習のしおりを活用した家庭との連携強化
《豊かな心を育む学校》	
○人権意識の向上	人権週間・いじめゼロ集会の工夫，教育相談の充実，道徳教育の充実 教職員によるいじめの早期発見・迅速な組織的対応 自己肯定感・自己有用感の向上の工夫
○基本的生活習慣の定着	「ようなん授業・生活のきまり」の徹底
○あいさつの定着	家庭・地域と連携したあいさつ運動の推進，教師の率先垂範
○場に応じた言葉づかいの定着	学級活動及び道徳教育の充実，言語環境の充実
○読書習慣の定着	読書指導の充実（読書週間・読書集会），読み聞かせの継続，市図書館との連携 読み聞かせの継続（ボランティア・教師），家庭の協力を得た家読の推進
《健康な身体を育み安全な学校》	
○運動習慣の定着	運動意欲の向上を図る工夫（業間・休み時間の運動促進，チャレンジ種目の設定，児童主体の運動イベントの企画・実践）
○好ましい食習慣の定着	食育指導の推進及び家庭との連携（給食だより・食育ファイル，お弁当の日振り返りカードの活用），栄養教諭による個別面談の充実
○安全に行動できる能力育成	警察や消防署，学校薬剤師と連携した授業の充実（避難訓練，交通安全教室，防犯教室，薬物乱用防止教室，喫煙防止教育，自転車免許講習，SNSやスマホ・携帯電話についての講座など）